

将来像について

1 前回案と主なご意見

案	四季を実感できるまち あまがさき
意図	<ul style="list-style-type: none">・生物多様性については概念が難しいため、身近な言葉に置き換えるなどの対応が必要である。・花見や農作物の収穫、虫の鳴き声、川遊びなどを風物詩として楽しめるのは、動植物が季節の移ろいに応じて様々な反応・活動をしているためであり、四季が実感できるという状況は生物多様性が保全されている状況だと捉えられる。
主なご意見	<ul style="list-style-type: none">・生物多様性を保全することは多様な生物を守るだけでなく、<u>人間が生き延びていくために必要</u>であることを強く記載すべきである。・「四季を実感できるまち」はわかりやすく良いアプローチだと感じるが「まち」と「ひと」が別になっている印象がある。・市民が様々な自然と一緒に生きているようなニュアンスを加えてはどうか。・四季の捉え方は人によって様々であり、<u>本質的な自然と人工的な自然は区別</u>して考えるべきではないか。・<u>現状においても四季を感じられることはあると思うが、それを感じられていないことが問題</u>であり、まちを変えていけば生物多様性の保全につながる、市民の感じ方・考え方も変わっていくまたは、変えていかなければいけないことがわかるものがよいのではないか。

2 修正案

(1) 対応

対応	ご意見の概要	対応
1	・生物多様性を保全することは多様な生物を守るだけでなく、人間が生き延びていくために必要であることを強く記載すべきである。	・将来像の前文において、生物多様性を保全することが私たちの暮らしを守ることに繋がっていることを記載しました。
2	・「まち」と「ひと」が別になっている印象がある。	・人間も含め多様な生き物が「共生」している「都市」を将来像としました。
3	・市民が様々な自然と一緒に生きているようなニュアンスを加えてはどうか。	
4	・四季の捉え方は人によって様々であり、本質的な自然と人工的な自然は区別して考えるべきではないか。	・自然については、将来像の前文において「成り立ち」という文言を用いて表現しました。
5	・現状においても四季を感じられることはあると思うが、それを感じられていないことが問題であり、まちを変えていけば生物多様性の保全につながる、市民の感じ方・考え方も変わっていく、または変えていかなければいけないことがわかるものがよいのではないか。	・「実感できる」という文言に様々な市民が「実際に実感できる」という意味と「実感することができる」という意味の2つを含めることとし、四季を感じられないという状況を変えていくことを示すこととしました。

(2) 将来像

私たちの暮らしは食べ物やきれいな空気・水などの様々な自然からの恩恵に支えられており、このような自然からの恩恵をもたらしている生物多様性を保全することは多様な生き物を守るだけでなく、私たちの暮らしを守ることにともつながり、無関心でいるわけにはいきません。

尼崎は都市化の進展に伴い、過去に市内に広がっていた田園風景の多くは姿を消し、日常的に自然に親しむ機会は限られてしまいました。自然の一部は現在も残存しているほか、新たに創出されているものもあります。

こうした状況を踏まえ、私たちの暮らしに必要な不可欠な生物多様性の価値を理解し、自然に対する感性を育みながら、尼崎の自然の成り立ちを踏まえた身近に四季を実感できるような都市の実現を目指すこととし、次のとおり将来像を定めます。

生き物と共生した四季を実感できる都市 あまがさき